

事後評価審議資料

街路事業（街路公園課所管）

○ 街路事業【（都）岐阜鶉沼線 蘇原工区】

- ・平成25年度事後評価箇所表 . . . p 1～4
- ・説明資料（パワーポイント） . . . p 5～12

平成25年度事後評価箇所表

担当課〔街路公園課〕

番号	4	事業名 (路線名等)	街路事業 (都市計画道路 岐阜鵜沼線)	
実施箇所	各務原市蘇原地内		全体事業費	(当初5,200百万円) 5,178百万円
採択年度	平成16年度	完了年度	平成22年度	
事後評価の実施基準	全体事業費5億円以上で、事業完了後概ね1年経過したもの			
事業目的	<p>本路線は、各務原市中心部北側を東西に縦貫し、岐阜市東部と連絡する重要な幹線道路である。本路線の北側にある県道長森各務原線は交通量が多く、渋滞をきたしている。さらに、本路線現道は幅員狭小で歩道も設置されていないことから、地域住民からも改良の要望が強い。このため当該区間を整備することにより、機能的な幹線道路のネットワークを形成し、交通の円滑化及び安全で安心な道づくりを図る。</p>			
事業概要	<p>起終点：各務原市蘇原花園町^{かかみがはらしそはらはなぞのちよう}～各務原市蘇原青雲町^{かかみがはらしそはらせいうんちよう}</p> <p>事業延長：1,558m 全幅員：25.0m</p> <p>車道幅員：13.0m (3.25m×4車線)</p> <p>歩道幅員：4.5m (両側歩道)</p>			
概要図	位置図			
標準横断面図【整備後】				

【整備前】

中間地点から終点方向へ



【整備後】

中間地点から終点方向へ



評価結果

① 住民参加・協働による効果

当該工区の整備に当り、地域住民や学識経験者からなる道づくり委員会を開催し、道路整備にかかる地域住民の声を反映した「道づくりの提言」を作成（H14年～H15）

- 【目標】
- （1）あんな道づくり（安全で安心できる暮らし）
 - （2）べんりな道づくり（使いやすさの向上）
 - （3）やさしい道づくり（生活の質の向上）

② 事業の効果

（1）幹線道路の渋滞の緩和（その1）

○県道長森各務原線の混雑度の減少

並行する県道長森各務原線では交通量が多く渋滞が発生していたが、

（都）岐阜鶉沼線の整備により県道長森各務原線の交通量が減少し、渋滞が緩和
混雑度：1.28（H11）→1.00（H24）

（2）幹線道路の渋滞の緩和（その2）

○各務原市内における東西軸の円滑な交通の確保に寄与

（都）岐阜鶉沼線の整備により、北側の県道長森各務原線および南側の（都）岐阜蘇原線は交通量がそれぞれ1～2割程度減少し、各務原市内における東西軸の円滑な交通の確保に寄与した。

路線名	県道長森各務原線	（都）岐阜鶉沼線	（都）岐阜蘇原線
H11交通量調査	12,000台／12h	3,600台／12h	15,500台／12h
H24交通量調査	9,800台／12h	12,000台／12h	13,500台／12h
増減率 （H24 - H11）	▲約2,200台／12h	約8,400台／12h	▲約2,000台／12h
増減率%	▲19.2%	233%	▲13.3%

（3）移動時間の短縮

沿線住民等へのアンケート調査結果より

○移動時間に対し、約6割が「短縮した」と回答

○医療福祉施設までのアクセス時間に対し、約3割が「短縮した」と回答
（平均で4分程度短縮したと回答）

（4）安全で快適な歩行空間の確保

○当区間整備前は歩道がなく、歩行者は車道の路肩部分を通行していたが、歩道の整備により、歩行者の安全性が確保された。

(5) 費用対効果

○B/Cは、3.2（費用便益分析マニュアルH20年）

③ 環境面への配慮

(1) 植栽による緑豊かな道路空間を創出

○各務原市の「緑の基本計画」に基づき、美しいまちなみの形成に向け、街路樹を整備し緑豊かな道路空間を創出

(2) LED照明の採用による環境への配慮

○長寿命かつ低消費電力であるLED照明を橋梁部、交差点部に使用し蛍光灯を用いた場合に比べて環境負荷を低減

④ 事業を巡る社会経済情勢の変化

(1) 東海北陸自動車道の延伸とテクノプラザの開発

○平成9年3月～平成10年10月にかけて岐阜各務原IC～一宮JCT区間が順次供用開始

○平成9年にテクノプラザが分譲開始し、平成10年に本館が完成

(2) 地価の変化

○事業区間沿線（2地点）では地価が約40%下落（H11年とH24年を比較）

⑤ 利用者・地域住民等への効果

沿道住民等へのアンケート調査結果により

○時間短縮効果に対し、約6割が「満足」「やや満足」と回答

○「車と車の分離」が図られたことに対し、約8割が「満足」と回答

○「運転のしやすさ」に対し、約8割が「満足」と回答

⑥ 対応方針（案）

(1) 今後の事後評価の必要性

今の段階では必要なし

○走行時間短縮、交通の円滑化などの事業効果を確認

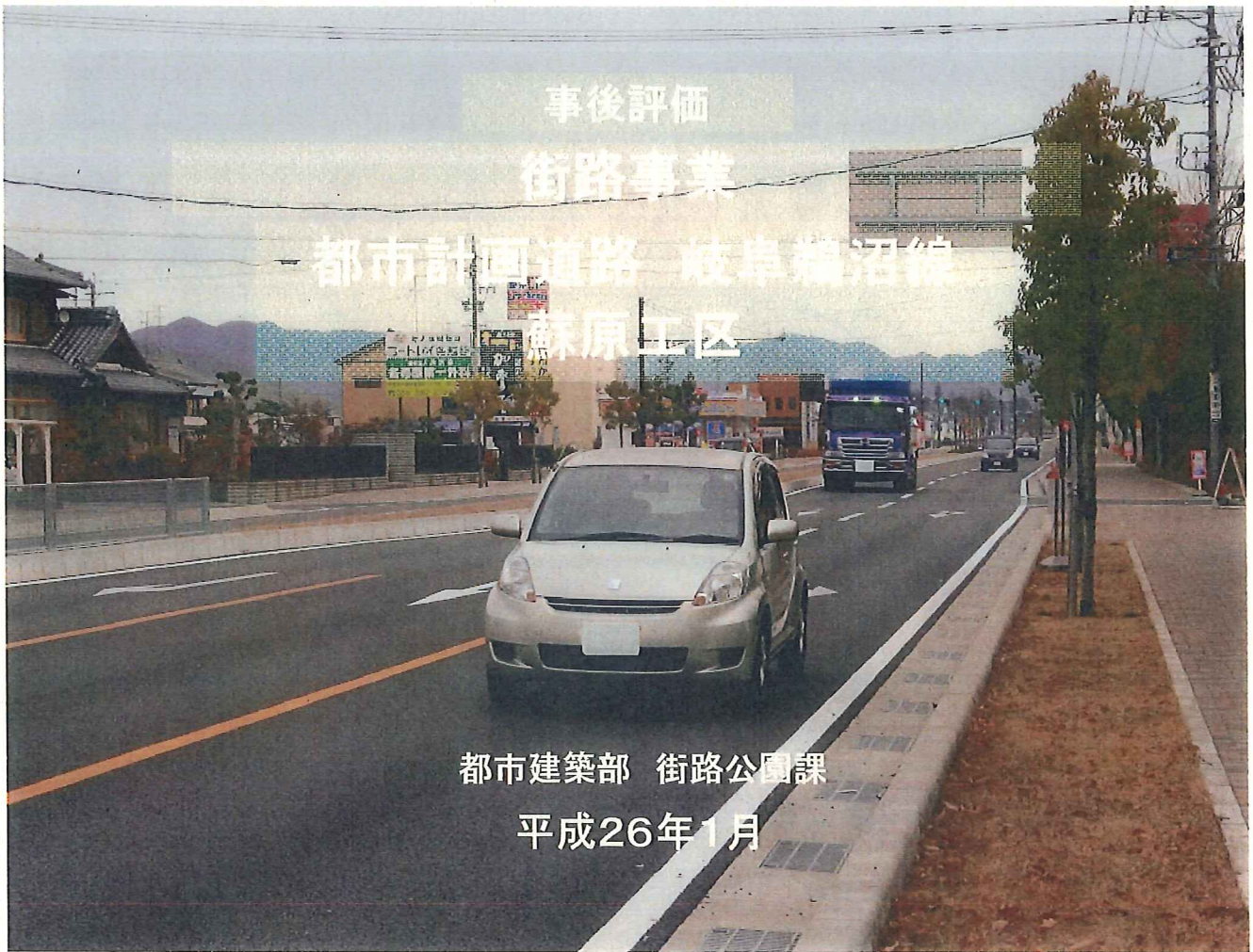
○沿線住民等へのアンケートにより、6割以上の「満足」を確認

(2) 改善措置の必要性

今の段階では必要なし

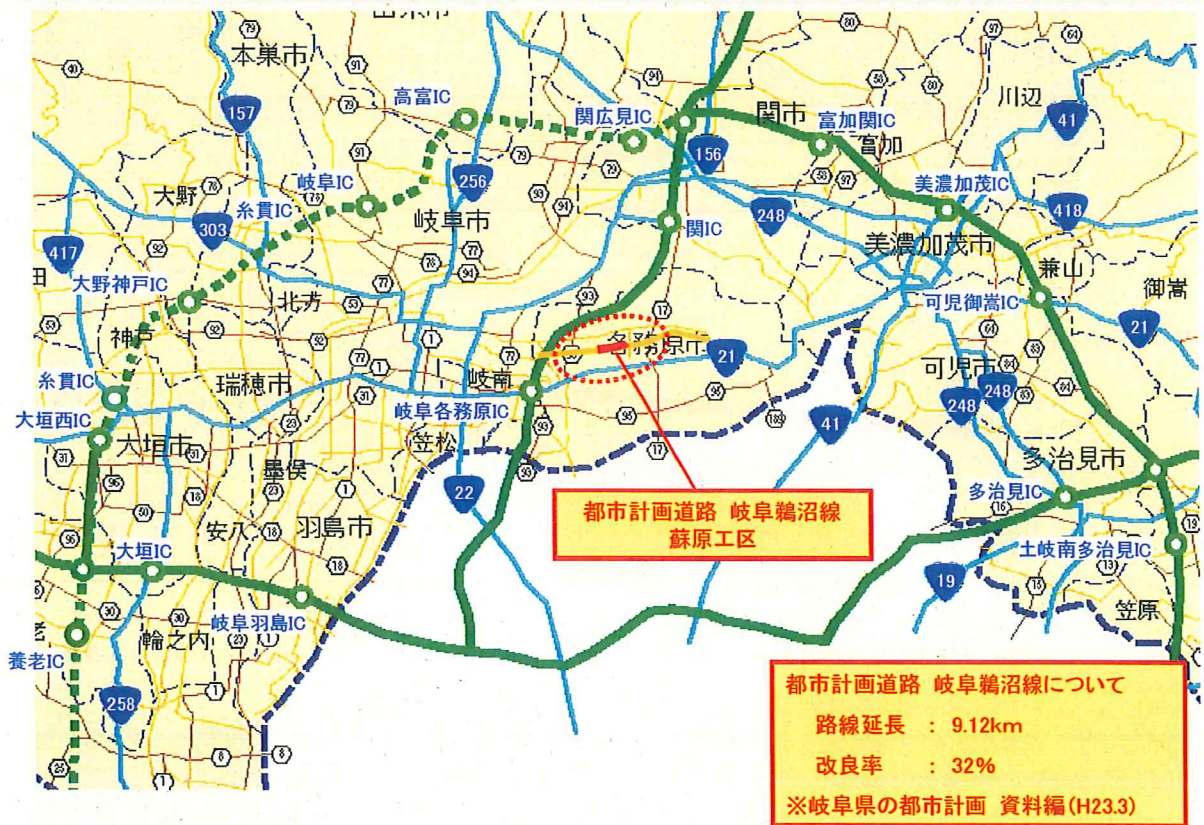
(3) 新規事業への適用すべき留意点

事業効果を効率的に発現させるため、段階的な整備目標や重点投資区間の設定等の工夫に努める。

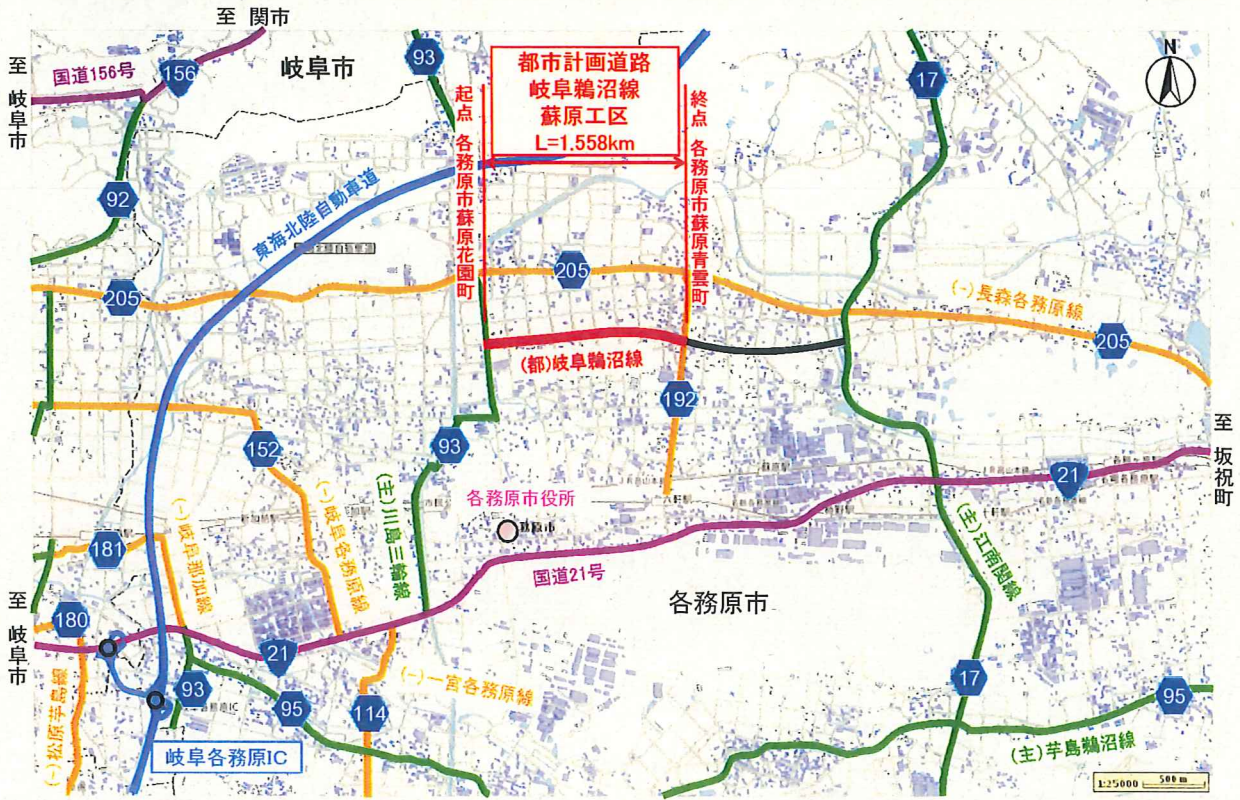


都市建築部 街路公園課
平成26年1月

位置図 ①

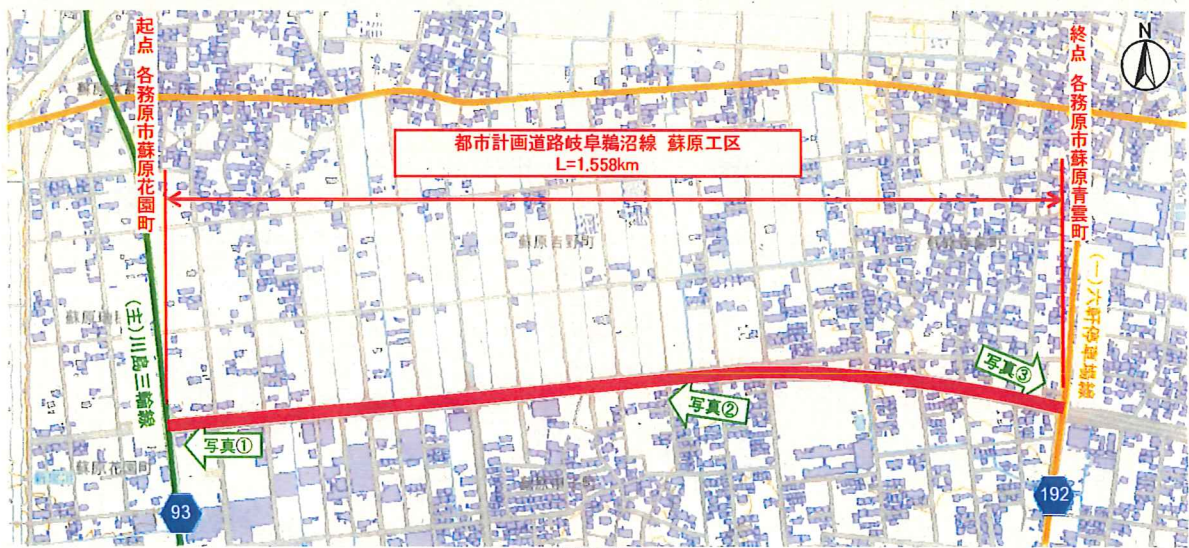


位置図②



3

位置図③



整備状況

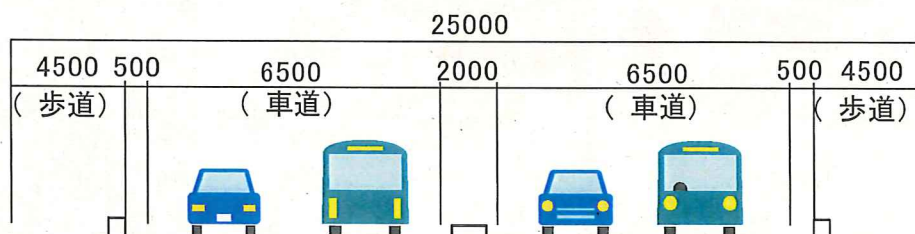


4

事業概要

- かかみがはらし そはら はなぞのちよう かかみがはらし そはら せいうんちよう
- ◆起 終 点：各務原市蘇原花園町～各務原市蘇原青雲町
 - ◆全体延長：1,558m
 - ◆総事業費：約52億円
 - ◆事業着手：平成16年度
 - ◆完 成：平成22年度
 - ◆幅 員：25.0m 車道 3.25m×4車線
歩道 4.5m（両側）

標準横断面図



5

住民参加・協働による効果

◆事業中の住民参加効果

- 当該工区の整備に当り地域住民、学識経験者が参加した「道づくり委員会」を開催し、『道づくりの提言』を作成
- 住民にとって安全・便利・やさしい道づくりを目標とした施策を設定
- 歩道が新設され、安全・安心に通行できることに対し、約79%が「満足」「やや満足」と回答

○道づくり委員会の目的

当該路線の整備にあたり、地域住民と行政が道路整備計画について検討

道路整備に地域住民の声を反映⇒提言書の作成



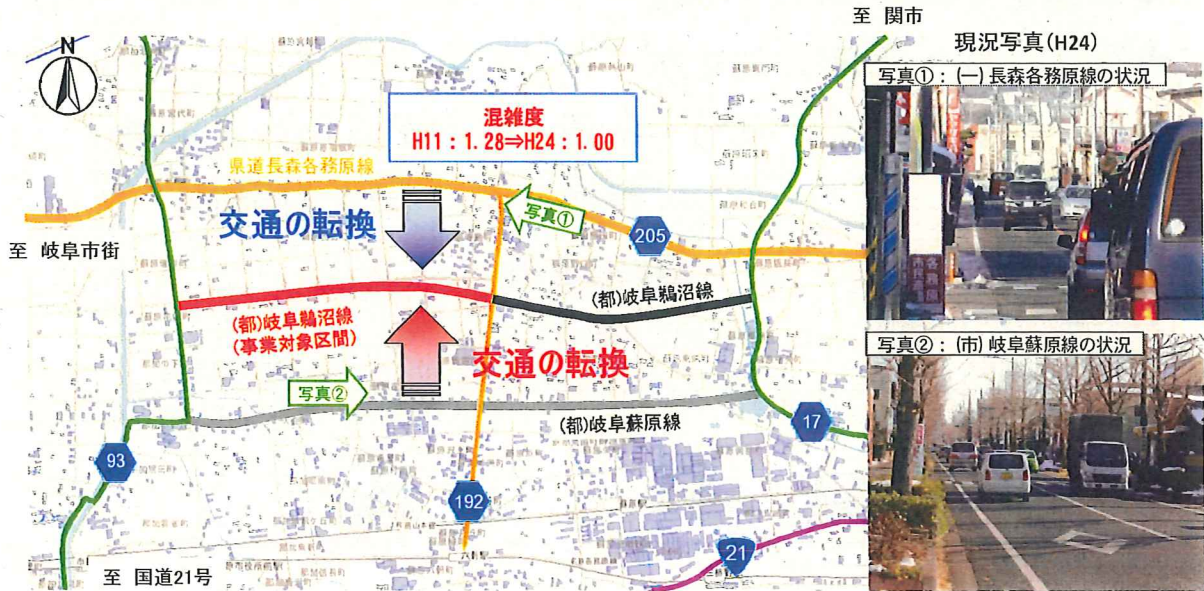
○具体的施策（項目のみ記載）

- あんな道づくり(安全で安心できる暮らし)
 - ・安全な通行
 - ・安全な歩道
 - ・安全な工事
 - ・排水
- べんりな道づくり(使いやすさの向上)
 - ・横断施設の設置
 - ・農業対策
- やさしい道づくり(生活の質の向上)
 - ・交通弱者にやさしい(バリアフリー)
 - ・生活にやさしい
 - ・人にやさしい

事業の効果①

周辺幹線道路の渋滞の緩和（その1）

- 並行する（一）長森各務原線では交通量が多く渋滞が発生
- （都）岐阜鵜沼線の供用により（一）長森各務原線の交通量が減少し、渋滞が緩和（混雑度 1.28 → 1.00）

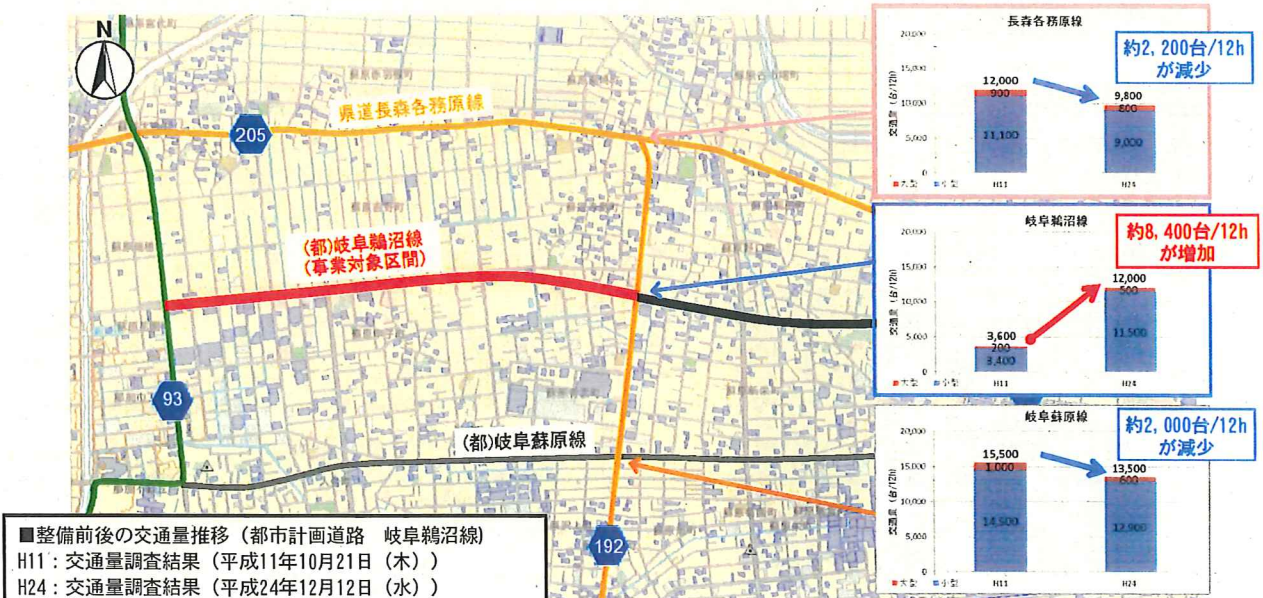


7

事業の効果①

周辺幹線道路の渋滞の緩和（その2）

- （都）岐阜鵜沼線の整備により、県道長森各務原線は約2,200台/12h（都）岐阜蘇原線は約2,000台/12hが減少
- 各務原市内における東西軸の円滑な交通の確保に寄与



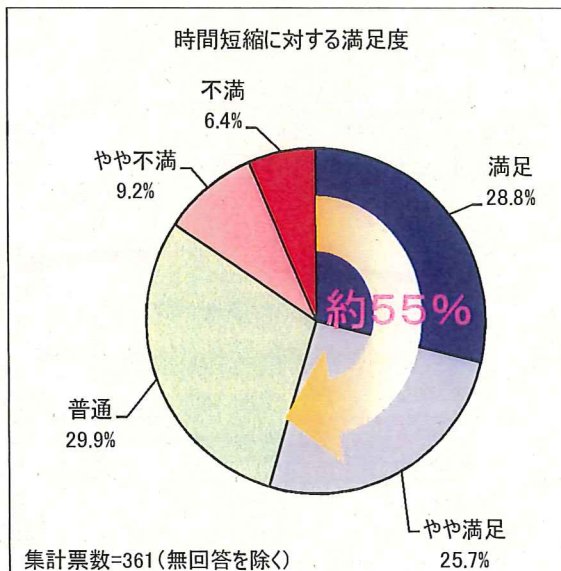
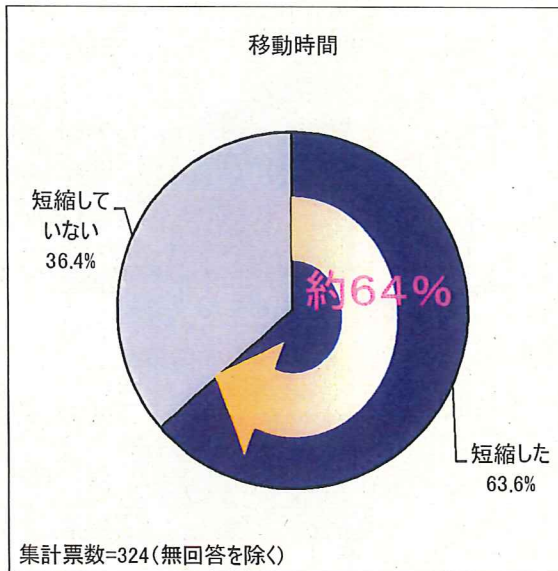
8

事業の効果②

移動時間の短縮（その1）

各務原市蘇原地区（約400人）住民アンケート調査結果

- 移動時間に対し、約64%が「短縮した」と回答
- 時間短縮効果に対し、約55%が「満足」「やや満足」と回答



9

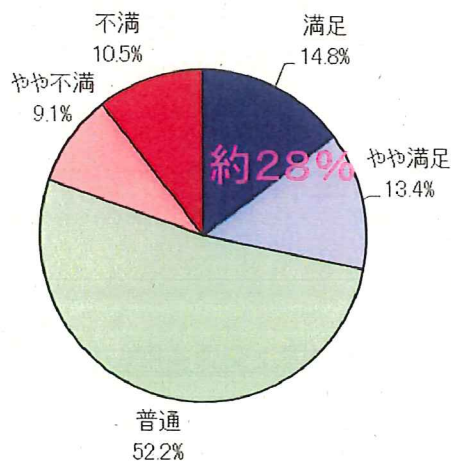
事業の効果②

移動時間の短縮（その2）

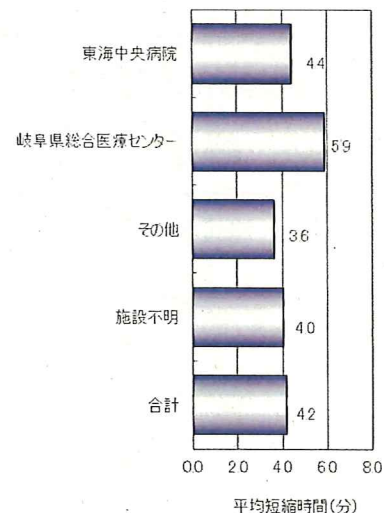
各務原市蘇原地区（約400人）住民アンケート調査結果

- 医療福祉施設までのアクセス時間が短縮されたと回答したのは約3割
- (都) 岐阜鶴沼線の供用により、アクセス時間が平均4分程度短縮されたと回答

普段利用されている医療福祉施設までのアクセス時間の短縮に対する満足度



施設別平均短縮時間



10

事業の効果③

安全で快適な歩行空間の確保

- 県道長森各務原線は幅員狭小で歩道未設置区間も存在
- (都) 岐阜鶴沼線は歩道未設置であり、歩行者は路肩部分を通行
- 歩道の整備により、歩行者の安全性を確保



11

費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 …… 効果全体の約 9.3%
- 走行経費減少便益 …… 効果全体の約 4%
- 交通事故減少便益 …… 効果全体の約 3%

投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 3.2 \text{ (全体)}$$

※費用便益分析マニュアル(国土交通省H20.11)に基づき算出

環境面への配慮

◆植栽による緑豊かな道路空間の創出

■各務原市の「緑の基本計画」に基づき、美しいまちなみの形成に向け、街路樹を整備し緑豊かな道路空間の創出を図った。

●歩道部及び中央分離帯部の植栽



●地元園児との記念植樹の様子



○(都)岐阜鶴沼線の位置付け
各務原市の「緑の基本計画」において通称久ノ井通りとして『水と緑の回廊計画』の重点計画
⇒「久ノ井」をメインに選定
⇒周辺環境に配慮し、環境圧を低減（大気浄化等）する緑化を行うことによりリラクゼーションややすらぎを得ることができるアメニティの高い環境を形成

○植栽の選定について

・選定基準

1. 道路利用者又は地元沿道者の環境保全の確保のため年間を通した美観を考慮する
2. 大気環境推奨木及び大気環境指標木の活用
3. 維持管理を考慮した樹木とする
4. 既設樹木との調和と路線の統一感を図る

・選定樹木

- 中央分離帯部の高木 → ムサシノケヤキ（大気環境推奨木及び指標木）
- 歩道部の高木 → クスノキ（緑葉樹）（施工済み区間との調和、維持管理や景観を考慮）
- 中央分離帯部の低木 → ハイビャクシン（横断防止、防草対策、景観）
- 歩道部の低木 → 芝（地被類） 高木周辺の防草対策
→ フィリヤブラン（地被類）地下構造物の影響で高木が植栽できない箇所

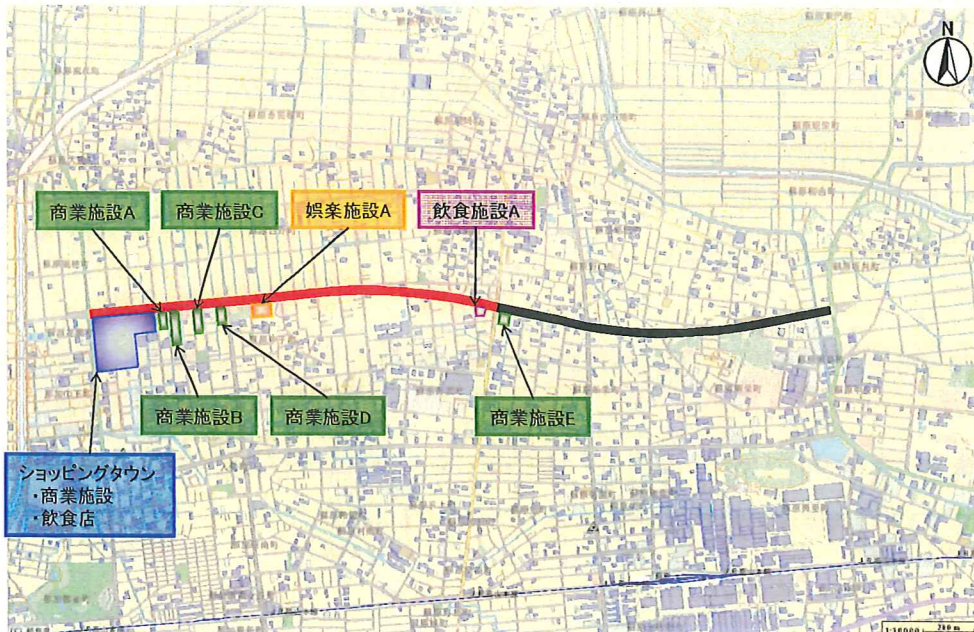
○街路樹の選定に当たり

- ・住民参画型みちづくり委員会を3回開催
- ・各務原市緑化政策プランナーである東京大学の石川幹子教授に、周辺との調和・配慮及び植栽形態について3回に亘り助言を頂く
- ・植栽の一部は、保育園児含む地域住民と協働で実施

事業を巡る社会経済情勢等の変化

◆地域商業の活性化

- 事業区間沿線には商業施設・飲食店・娯楽施設が立地
- 商業施設・飲食店・娯楽施設への集客が期待される

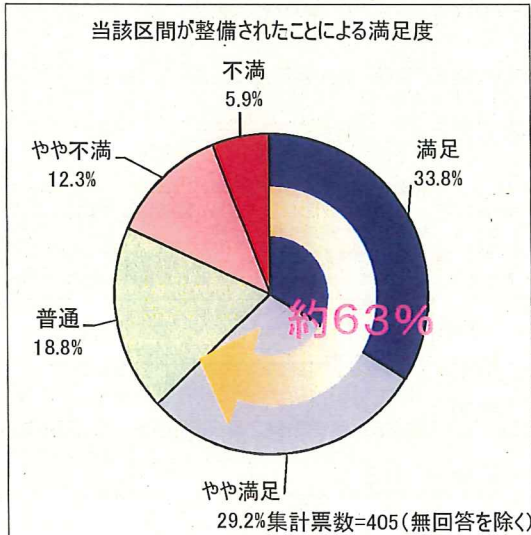


利用者・地域住民等への効果

◆アンケート調査結果（事業に対する満足度）

各務原市蘇原地区住民アンケート調査結果

- 当該区間の整備により、約63%の利用者が「満足」「やや満足」と回答
- (都) 岐阜鵜沼線の整備により、自動車利用時の利便性が向上した、都市化が進む、市の発展に繋がる等の自由意見



【自由回答での意見】

①「満足」「やや満足」の意見

- ✓ 自動車利用時の利便性が向上した
- ✓ 広い道が出来て、都市化が進む
- ✓ 安全で綺麗な道が出来て良かった
- ✓ 市の発展に繋がる

アンケート調査配布対象地域

各務原市蘇原地区	合計
配布枚数	1,000票
回収票数	413票
回収率	41.3%

15

対応方針(案)

(1) 今後の事後評価の必要性

今の段階では必要なし

- 走行時間の短縮、交通の円滑化、安全性の向上など高い効果を確認
- 沿線住民等へのアンケートでも、6割以上の「満足」を確認

(2) 改善措置の必要性

今の段階では必要なし

(3) 新規事業への適用すべき留意点

事業効果を効率的に発現させるため、段階的な整備目標や重点投資区間の設定等の工夫に努める。

16